

# オープンウォータースイムを生かした地域づくり調査 ～NYと福井市で開催されるレースの比較～

野尻 奈央子\*

## The Community improvement investigation that utilize Open Water Swimming

Naoko Nojiri

In this study, we performed a comparison of regional development and management methods of open water swim race in NY and Fukui. Because the size of the different participants, whereas not been set, the race conditions of participation in NY, race past performance, conditions of participation Fukui city, self-application in the pool swimming in the management of NY and Fukui fill out are required. As race management funds, by which not only won the grant from and sports promotion organization, won the sponsorship money from the corporate sponsors and local, which contributes to local, it is an opportunity for regional development.

Keywords: Open water swimming, コミュニティ, スポーツイベント, 地域づくり, 地域活性化

### 1. はじめに

オープンウォータースイミング（以下：オープンウォーター）とは、川、湖もしくは海洋などの自然環境のなかの水泳競技とされている。また、そのルールについては、FINA（国際水泳連盟）ルール 1.1<sup>1)</sup>で定められている。

しかしオープンウォーターは、FINA ルールとは別にローカルルールも存在する。ローカルルールでは、一般に「オーシャンスイミング」などの名前で親しまれており、海洋などの自然環境で泳ぐことは変わらないが、距離は定められておらず、参加者が安全で快適に泳ぐことを目的として開催されている。年齢や競技レベルに関係なく、トップ選手から達成感や自然との一体感を味わう参加者が多いことから近代のスポーツにマッチしたニュースポーツと考えられる。

本研究では、ローカルルールで運営されている福井市内で開催されている福井オープンウォータースイムレースとニューヨーク（以下：NY）において開催されているオープンウォーターレースについての運営および地域づくりについて比較調査を行った。

### 2. オープンウォータースイムレースの概要

福井市のレースでは、400m, 800m, 長くても 2km などの距離が設定されており、初級者から中級者

---

\* 産業ビジネス学科

をターゲットにしたスイムレースが行われており、参加者数は250名程度である。それに対し、NYでは2kmレースは短距離レースとされ、規模は2000名を超えるものが多い。また、参加条件に関して福井市では、あまり設定されていないが、NYでは過去のレース実績、プール泳での自己申請を必要とされる。長距離泳になるほど主催者側によって参加条件が設定されている場合が多く、また参加条件が厳しい程そのレースの人気と地位が高くなり泳者にとってステップアップの向上にもなる。いずれも主催者側に対して参加費納入と同時に制約書にサインをする。

福井市、NYのレースともに悪天候で中止になったとしてもエントリー費の返金はない。しかし、主催者側の判断でレースが実行されない場合は参加費の半額が同じ主催者側の同年、もしくは翌年のレースにエントリー費が活用できる団体もある。ドクターストップの場合も同様である。参加者定員割れのレースは規模を縮小したり、コース変更をしたりしてなるべく実行できる様に取りはからう。泳者にとってキャンセルが多いレースは嫌われやすく主催者側は万全を尽くすのが必須条件であり、レースが実行されない場合でも参加登録された者にグディバッグを手渡す等の配慮をしている。



写真一 CIBBOWS グリマドースイムレース



写真二 福井オープンウォータースイムレース

### 3. 安全体制

セーフティーディレクターが役割分担を決定する。無線ラジオ、笛、サインランゲージ等で随時コミュニケーションをとり、危険性の少ないレースでも非常事態に対応できる訓練も必須である。

レースの規模にも偏りがあるが、短距離のレースならばジェットスキー、ボートで十分カバーできるが、マラソンスイミングでは泳者1人に対しボートもしくはカヤック必須条件となる。福井市では警察の監視艇が、NYではハーバーポリスや海保がレース中注意を払って付き添ってくれる場合が多い。

またカヤックやレスキューボードによって安全体制を強化している。これらの利点はジェットスキーやボートより泳者の目線で泳者に近寄りやすく、ビーチレースには適している。ブイやコー

スマーカーとして、またライフガードとしても使える。しかし、福井市では日本海でのレースのため、天候や海の状況が変わりやすいためカヤックを使用していない。

NY で活動している CIBBOWS(シーボウズ)のライフガード、スイムバディは、地元ライフガードとの連帯関係が強くスイムバディとして無償で奉仕している。スイムバディとは泳者の後方から泳ぎ、遅れを取ったり、コースから外れる泳者をコースに戻したり、パトロールをする泳者である。レース初心者にとっては頼もしい存在であり、セーフティークルーの仕事分担も減るため重要な存在である。ライフガードライセンス所持者が望ましいが、ある程度のレベルの泳者にトレーニングコースを提供して活用する場合もある。

安全体制を整備することとして、レース運営前には消防、警察、海上保安庁などに行事開催届を提出が義務づけられている。NY では、救急隊員と救急車を時間で雇って待機させる場合もある。レースで重篤者が出た場合、死の危険性が高いため AED も準備しておかなければならない。

#### 4. ボランティアとポイントシステム

多くのレース団体がボランティアを使って運営をしている。水泳の関係者だけにとどまらず地元の人達に参画してもらうことでレース自体の運営がスムーズに行われ、地域活性化にもつながる。参加者もレース開始前にビーチクリーンや受付などボランティアとして動く事も多く、NYC SWIM(ニューヨークスイム) ではボランティアに対してポイントシステムを導入している。ポイントに応じてエントリーしにくいレースへの参加優遇等を設定している。また CIBBOWS(シーボウズ)のメンバーズは各自の職業を生かして運営しており、水泳従事者をはじめ企業の社長、弁護士、医者、アート系アーティストなどもレースの主催者をする場合もある。

#### 5. スポンサーシップとチャリティー

レース運営の資金として、主催者の資本金、レースエントリー費だけに限らず、物資、記載連盟、協会等から協力金を依頼することが多い。公益財団法人、スポーツ振興団体などから助成金獲得のために申請することもある。またスポーツ関連企業、栄養強化食品会社、環境保全団体、地元企業等からの協賛金を募る。商品を扱う企業なら自社製品のサンプルや宣伝チラシ等が豊富にあり無料宣伝などに活用できで双方に利点がある。CIBBOWS(シーボウズ) では、地元水族館のチャリティーレース、寄付金を寄贈しているため水族館の一部を無償で解放したり、カヤックを無償で保管してもらったりしている。参加者もチャリティーをするという点で参加費が高くても満足感があり、チャリティーのレースは人気がある。レース参加された者に渡すバッグ、キャップ、T シャツも参加者にとっては楽しみの一部で、これらはスポンサーが提供してくれることが多い。また、US マスターズ連盟に登録していると保険やグッズ等の支給支援などがあり、スポンサーの獲得に関して

は、NY レースの事例に学ぶ点が多くある。

## 6. コミュニティ

地域活性化や地域づくりをスポーツイベントによって浸透させるためには、地元の協力が必須である。地元の商店に出店やクーポンなどを活用し、地元のイベントとして多くの参加者を募り、また地元の商店街なども利用してもらう。トライアスロン、カヤッククラブ、スイミングクラブ、地元商店街、自治体等との連携し、地元住民と参加者の満足度を高める必要がある。ビーチクリーン、環境保全など地域に還元することが重要である。また単発的なイベントだけでなく、地元にも多くの参加者や観光客が訪れるように年間を通して継続的にイベントを開催する必要がある。昨年 11 月、NY 近郊では歴史上にも残るハリケーンサンディーが直撃し、多くの被害を齎した。CIBBOWS(シーボウズ)では自主的にビーチクリーンをはじめ、地元団体と協力して停電中のステップランナーとして高層ビルへの食事配達等を行っている。コミュニティの一部として理解を得る事によって地元にも根強いイベントになるであろう。

## 7. まとめ

本研究では、福井市と NY でのオープンウォータースイムレースの運営方法および地域づくりの比較を行なった。結果は以下の通りである。

- 1) 福井市と NY の運営においては参加者の規模が異なるため、福井市の参加条件は、設定されていないのに対し、NY でのレース参加条件は、過去のレース実績、プール泳での自己申請の記入が義務づけられており、参加するためには日々のトレーニング実績が必須となる。
- 2) 安全体制としてライフセーバー、ジェットスキー、ボートの他に NY ではカヤックを活用している。その利点として、泳者の目線で泳者に近寄りやすいため、泳者に安心感を与えられることや泳者の要望に応えやすいことである。福井市のレースで今後検討したい。
- 3) レース運営資金として、スポーツ振興団体などから助成金を獲得するだけでなく、地元でスポンサーや企業から協賛金を獲得し、地元にも寄与する事で、地域づくりの契機となる。
- 4) 地域活性化のためには、地元商店街、自治体等との連携し、年間を通じてスポーツや観光など企画を継続的に開催する必要がある。

## 8. 参考文献

- 1) 日本水泳連盟(2002)水泳指導教本。大修館書店
- 2) CIBBOWSウェブサイト:<http://cibbows.org/index.html> <http://www.8bridges.org/>
- 3) NYC SWIM(ニューヨークスイム): <http://nycswim.org/>

(平成 25 年 3 月 31 日受理)